

12

2006
DECEMBER
No.39

大 蔵

contents

館長エッセイ 宇野 史郎	1
特集：本が書棚に並ぶまで	2
news news	4
シリーズ：利用者サービス⑥	6
information	7
staff column 東 勇一	8
図書館日誌	8

館長エッセイ

シネマの街に想う

かつてない猛暑も去り、初秋のある日のこと、「活動写真鑑賞会」に招かれ、初めての無声映画を観る機会を得た。熊本市新市街にある老舗映画館 Denkikan（電気館）が開業95周年を記念して開催したもの。

映像に合わせた臨場感あふれる活動弁士による語り、観客の感情をそそる楽団演奏。観るひとの心がそれに引き込まれ、観客と一体化した世界。古き良き時代の懐かしい活動写真の世界を体感させていただいた。余韻が冷めぬうちにと、改めて映画の歴史とともに、以前頂戴していた『新市街100年』（窪寺雄敏著）を繙（ひもと）いてみた。

当日上映されたのは、小市民ものを得意とした小津安二郎監督の「浮草物語」（1934年制作）と喜劇の神様と呼ばれた斎藤寅次郎監督の「子寶騒動」（1935年制作）の2本。実は、これらの映画はかつての電気館で封切られ、前者は1934年11月22日、後者は1935年3月23日のことだったという。70年余の歳月を経て、活動弁士と楽団演奏による無声映画が再現されたことになる。

Denkikanは1911年（明治44年）1月1日に熊本初の活動写真常設館「電気館」として、現在のシャワー通り沿いに開業し、1914年に新市街に移転、今日まで「映画の

灯」をともし続けている。東京の浅草に日本初の常設館である電気館が開業したのが1903年。九州では、長崎市に次いで2番目の常設館であったといわれており、当時の熊本市の九州での位置づけが窺え、興味深い。

新市街界隈にはその後映画館が林立し、シネマ街として中心市街地の発展をリードしてきた。映画全盛期の1960年前後には12館もあったという。しかし、その後はテレビの普及、娯楽の多様化、さらにはシネコンの台頭もあって、撤退が相次ぎ、現在4館にまで減少している。撤退したなかには、第5回国際美術展でグランプリに輝いた海老原喜之助画伯の「蝶」がタイルのモザイク壁画で飾られていた熊本東宝会館（1960年に誕生）もある。モザイク壁画は2007年3月完成予定の、わが熊本学園大学「60周年記念会館」の外壁に移設され、復活することになるが、シネマの街としては名物が1つ消えることになった。

シネマの街として、1世紀近くともし続けてきた「映画の灯」は、まさに熊本の大衆文化そのものであったといえる。中心市街地の危機が叫ばれているなか、シネマの街の行方は、熊本の大衆文化そのもののあり方を私たちに問うているともいえる。

宇野 史郎 (うの しろう)

商学部教授
専門：都市流通とまちづくり
平成16年1月から図書館長
「シネマの街の行方は、熊本の
大衆文化そのもののあり方を
私たちに問うている」



Uno Shirou

みなさんの知的欲求に応えます

図書館の棚には図書、雑誌、新聞などみなさんの知的欲求に応えるために様々な資料が並んでいます。今回の特集は資料のひとつである本(図書)がみなさんの手元に届くまでを紹介します。本を選ぶところから書棚に収まるまでを追いかけてみました。

選書・発注(本を選び、購入を依頼すること)

カタログ・新聞の書評・みなさんからのリクエストをもとに定期的に会議を開いてどの本を購入するか選びます。(選書)

先生から学生のみなさんに読んでほしい本の推薦を受けることもあります。

購入する本が決まったら、本の重複がないか確認して、書店や出版社へ注文します。(発注)

これらの作業は、図書館の電算システムにデータを入力することにより、正確で迅速な処理が行われます。

受入

購入を依頼した本が届けられます。書店から届けられる場合や出版社から直接送られてくる場合があります。



1年間に約2万冊の本や約4000種類の雑誌が納入されます。

発注書類と届いた本のタイトル、著者や出版社を照合して点検します。まちがいがなかったら、次の作業に移ります。

装備 Part.1

本の乱丁・落丁を確認したり、蔵書シールを貼ったり、蔵書印を押したりします。

目録作成

受入が終わった本は目録を作成します。書誌情報として書名、著者名、出版事項を記録し、内容をもとに分類記号、著者記号などをつける作業です。現在はオンラインで結ばれた国立情報学研究所(NII)の目録データを取り込んでいます。このデータは国内の大学図書館が利用しており、このデータを参照することによって共通の書誌データが作られます。

みなさんが本を探すときに使う蔵書検索の元となるデータです。

また、NIIに目録データがない場合は、新たに作成することになります。この場合、当館で作成したデータが他の図書館でも利用されることになります。



装備 Part.2

本の表紙にブックコート(ビニールカバー)をかけた後、請求ラベルを貼ったりする作業です。

ここまでの作業は、直接みなさんの目に触れることはありません。最後に点検を行って、いよいよ書棚へ並びます。



配架(請求記号をもとに図書を書棚に配置すること)

目録作成・最終点検を終えた本は、4階の事務室から2階のレファレンスカウンターを経由して1階のカウンターに下りていきます。途中で2階に配架される本もあるからです。1階カウンターでは、各冊を吟味して館内の配架先を確定し、貸出の準備をします。これらは新着図書としてまずはフロア中央の「新着図書」コーナーに配架されますから、お見逃しのないようにチェックして下さい。その後、2週間もすれば「一般図書」や「文庫・新書」コーナーなどに配架されます。

書棚に並べてある本は、利用者みなさんが探しやすいようにいつも正しい位置に配置するように日々点検をしています。



閲覧(資料を館内で利用すること)

館内で本を読んだり、メモを取ったりすることは自由にできます。著作権法で認められた範囲ならば本の複写も可能です。

複写機利用の際は必ず手続きをしてください。



貸出・返却(資料を館外で利用すること)

本の貸出、返却は1階メインカウンターで受け付けます。貸出、返却、予約などのデータはすべて図書館システムで管理されています。

補修作業



表紙がちぎれたり、ページが破れた本は発見しだい修理します。

蔵書点検(資料の所在を点検し、資料の状態を把握する作業)

1年に1回エリアを決めて本の所在を点検しています。不明本が出た場合は図書館中を探し回ります。

書庫(資料を収蔵する場所)

内容が古くなったものや利用頻度が低いものは、地下書庫に保管されます。地下書庫の資料は、請求すれば利用することができます。

書棚に並んだ図書や雑誌などの資料は、利用者みなさんのお役に立てるように出番を待っています。みなさんいろいろな資料を上手に利用して“知性”をさらに磨いてみませんか。

図書館実習で磨きをかけよう!

本学図書館では、司書および司書教諭資格の取得を目指す本学学生の実習受入・指導を行っています。この実習は図書館司書課程の講義・演習で学んできた理論を実際に現場で実践し、具体的な技術の習得を図るものです。本学では第一部の全学科で司書および司書教諭資格取得のための課程を設けており、実習は「図書館特論」として4年次での選択科目となっています。

毎年恒例となっている実習ですが、今年度は受入先が増えたため本学での実習生は例年より少なく、緊張した面持ちで10月14日のスタートを切りました。今回は20日までの一週間で各係を一巡し、総合判断ができるようなプログラムを組みました。

実習生は①図書・雑誌の受入②目録業務③閲覧業務④雑誌・視聴覚資料の利用提供⑤レファレンス業務と毎日さまざまな種類の仕事を手がけ、その日のうちに



1階フロアにて配架実習中

実習内容や感想を記録して翌朝提出します。記録の中の誤字を訂正されたり、うまくできなかった応対への反省を励まされたりしながら、司書という仕事への魅力と責任感を再発見し、毎日張り切った表情で実習に取り組んでいました。

〈実習生の声〉

「司書に必要なものは？」

経済学科4年 間普 響子

実習を通して理解したことは、皆が協力し合っていることです。そして、一人一人が司書としての責任を持ち、利用者にどうサービスを提供するか、利用しやすい環境をつくるには、どうしたら良いかを考えていることです。司書は、事務的なことだけでなく、コミュニケーション能力も必要とされているので、責任感、正確さ、冷静な判断が大事だと感じました。今回実際に体験してみて、司書以外のことについてもたくさん得ることができました。

「図書館実習を通して学んだこと」

経済学科4年 小松 由佳

今回実習を行って、今まで見る事のできない図書館の「裏側」を見る事ができました。何となく私達が手に取って見ている本も、それが図書館に並ぶまでにはたくさんの人手と時間がかかっている事など、実習があったからこそ学べた事ではないかと思えます。また、カウンターでの業務も、利用者として見ているのと、実習生としてカウンターに座って業務をやる事とでは、仕事の量が違うことに驚きました。たくさんの事を学び、頭が混乱しそうになりましたが、とても充実した一週間だったと思えます。

学生懸賞論文応募状況

平成18年度の学生懸賞論文の受付がこのほど締め切られました。募集の対象は、学部学生のみ。今回は6点の応募がありました。応募数はここ数年減少傾向にあり、寂しさも感じられますが、次回は応募数が増えるようにみなさんの作成意欲に期待しています。応募された論文は、このあと審査が行われ、12月上旬には

入賞作が最終的に決定されます。特選には賞金10万円が贈られます。

なお、入賞者の表彰に併せて、論文作成にまつわるエピソードなどを発表する場を設けます。多くの方の参加をお待ちします。

図書館フォーラム開催

本学図書館主催の公開フォーラムは昨年につづき2回目。10月21日(土)午後2時から本学図書館地下AVホールに於いて。今回は東京学芸大学教授山口源治郎氏(専門は図書館情報学)を講師に迎え、「新しい図書館像とまちづくり—公共空間としての図書館の役割—」と題して講演が行われました。当日は、一般市民、図書館関係者、学内関係者など約80名の参加がありました。

講演では、「図書館は知識と情報の共有地であり、現代社会の問題や地域の課題を議論する場であり、利用者の生活要求、情報要求をいかにリアルに把握できる

かが重要になってくる。また、図書館が行政と協力することで、人々のさまざまな生活支援の可能性が広がっていくのではなか」と述べ、参加者も熱心に聞き入っていました。



講演する山口源治郎氏

オープンキャンパス



資料に目を通す高校生

「オープンキャンパス2006」が、7月17日、8月8日、10月21日に開かれ、多くの高校生や保護者が本学を訪れました。図書館にも「ラ

イブラリー探検」として、3回で約1,200名の見学がありました。見学の高校生は、普段利用している高校の図書館とは違う大学図書館の学習や研究を行うための整った機能や設備、様々な種類の資料や蔵書数の多さを目にし、驚いた様子でした。見学では、OPACで蔵書検索をしたり、書架をゆっくり眺めながら本を手にしたたり、また、AVコーナーでは音楽やDVDを視聴したりなど、思い思いに図書館を体験する姿が見られました。

第3回(10月21日)のオープンキャンパスでは、図書館の点字室も見学コーナーに加わり、点字に興味ある高校生たちが点字図書や点字パソコンなどを熱心に見学していました。

ライブラリー探検」として、3回で約1,200名の見学があり

“ナイストライ” 受入れ

「すごくたくさん本があり、びっくりした」、「見たこともない多くの外国の新聞や雑誌があってすごかった」、「図書のラベル貼りのような細かい仕事や書架に本を並べたりするのが大変だったが、本を読むまでにいろいろな人に支えられていることがわかり勉強になった」、「図書館の仕事は本を並べたり貸出することだと思っていたが、その裏でラベルを貼ったり、本のデータをパソコンに入力して整理する仕事などがあって、働いている人の努力があることがわかった」…。

熊本市立帯山中学校2年生の職場体験実習(ナイストライ)が、去る9月12日から14日までの3日間行われ、これはその体験実習から学んだ中学生の感想です。体験実習に訪れた10名の生徒たちは、大学図書館の機能に戸惑いながらも、蔵書数の多さや初めて目

にする図書に感嘆し、好奇心を持って一所懸命“実習”に取り組んでいました。このナイストライは、毎年熊本市内の中学校恒例の行事とし

て帯山中学校でも実施されており、本学図書館でも数年前から受入れを行っています。今後もこの体験を思い出して、図書館への理解をより深めるとともに、自分の将来の職業への指針に繋げてほしいと願うところです。



体験実習が終わって…

郷土の「絵図」修復

図書館に郷土の絵図が10点ほど所蔵されています^(注1)。1972年に鶴屋百貨店の古書展で購入されたものです。地図室に保管していましたが虫食いや損傷が激しく通常の利用に耐えられませんでした。そこで京都の専門業者に裏打ち^(注2)を頼みました。

とくに、「芦北郡絵図」はいまの水俣の研究資料になるでしょうし、「熊本城下地図」は築城400年にあたり館内に展示してもよいかもしれません。

修復には当時の購入価格以上の費用がかかりましたが、これを機に「絵図」が所蔵されていることを全学に広め、利用に供されたいものです。

これで古地図・絵図の現物としての修復は完了し、軸箱や中性紙保存箱に収まりましたが、これからの保存・利用のあり方としては、写真複製・デジタル化といったメディア変換の声もあがってくるでしょう。



芦北郡絵図



熊本城下地図



熊本城下地図(中心部拡大)

(注1)

- | | |
|---------|---------|
| ①芦北郡絵図 | ②熊本城下地図 |
| ③山鹿郡之絵図 | ④球磨郡図 |
| ⑤天草郡図 | ⑥阿蘇郡図 |
| ⑦菊池郡地図 | ⑧宇土郡之図 |
| ⑨八代郡之図 | ⑩肥後国絵図 |

(注2)

劣化(虫損、欠損、黴)した本紙を裏側から料紙で糊付けする方法。和本の修復に多く用いられる。

シリーズ 利用者サービス⑥

郷土資料コーナー

3階フロアにある「郷土資料コーナー」には、熊本県に関する資料を集中して配架しています。各種統計書や水俣病に関する資料、地図、各市町村史、熊本に縁のある人たちの著書等々古いものから新しいものまで多数揃えています。熊本に関する資料を探している場合は「熊本」を知るためにも、直接「郷土資料コーナー」へ足を運んでみてはいかがでしょうか？県外出身者の方も一度は訪ねてみてください。

もちろんパソコンで蔵書の検索をすることもできます。並び方は分類記号(請求記号)順に並んでいます。

一般図書と同様、貸出も可能ですので、借りたい場合は1階カウンターで手続きをお取りください。



「熊本」の資料が揃っています

司書講習を終えて

今年の夏、私は別府大学で行われた司書講習を受講することができた。二ヶ月間は学生に戻れたような気分でもあり、図書館業務を経験していることが講義を聴くときの助けになったと思う。無事に司書課程を修了することができ、職場に戻ってきて感じることは、利用者と接するとき以前より自信をもって対応できるようになったということである。

司書の勉強といっても、とても幅が広くて二ヶ月間のあいだで学んだことは図書館についての「基礎の基礎」といいほどのことである。それでも図書館の閲覧係という限られた範囲の中で仕事を覚えてきた私にとってはレファレンスに関することや図書館の歴史や経営、図書の選書や整理について初めて聞くことばかりだったから、とても新鮮だった。図書の目録や分類、レファレンスの実践演習では課題を繰り返すことでわかってくる部分と、ますますわからなくなってくる部分とあって、興味のある分野の勉強とはいえ、辞書を引くのに苦しむときもあった。先輩方には、慣れないうちは時間がかかるかもしれないけれど、徐々に調査プロセスを組み立てる力がついてくるものだとアドバイスをもらったりして、自分にできるか不安に思いながらも、実際の業務を思い浮かべることのできつつひとつの課題に取り組むことができた。私はこれまで、図書館員として、知識がないといけないとか、細かい作業をたくさん覚えなきゃならないとか、少し難しく考えていたのかもしれない。ある程度の仕組みを知ることで、一から十まで覚えこまなければならないわけではないし、色々なツールを使って目的の情報に

たどり着けばよくて、そういった調査作業は実際にやってみると楽しいものでもあった。

講義を聴き、いろんな人の図書館に対する考えを聞いていくたびに、少しずつ図書館全体のことが見えるようになってきて、自分の担当しているカウンター業務についても考え直すことができた。カウンター業務は、利用者からの質問にすばやい回答が求められるので、情報の検索技術が必要であるけれども、それよりもまずは、利用者が言いたいことや求めていることを正確に理解できる力が必要で、相手に伝わるコミュニケーションをとる技術が最も重要であることを学んだ。

二ヶ月間を熱心な講習生たちと寝食をともにしながら学び、触れ合っていく中で教えられることも多かった。皆それぞれが図書館を利用する側としての意見を持ち、私にとってそれは「利用者に満足してもらえるサービス」について考えるときのヒントになった。また、人と人とのつながりを大切にしたい今の時代だからこそ、図書館員と利用者との間で信頼関係を築いていくことが、ネットワークの拡大に繋がることも教えてくれた。

図書館員としての資質、技術、経験どれもが今の自分に足りないものばかりだけれど、「これからの図書館」を作っていく一員として、図書館に新しい価値を見つけていけるよう努力していきたいと思っている。

(閲覧係 横田かおり)



information

パソコン利用方法の変更 11月より、自習用パソコンの利用方法が変わりました。

利用手続きはカウンターで学生証を提示し、利用証を受け取ってください。パソコンの使用が終了したら、速やかにカウンターに利用証を返却してください。パソコンは1階と2階にありますが、手続きは各階のカウンターでお願いします。

「あたりまえ」の「?」と「!」

自分の周りを眺めてみて、蛇口をひねると水が出て、スイッチを入れると灯りが点く。これは「あたりまえ」のことのように思いがちです。でも、ここで「?」や「!」と覚えることがあります。特集でも一部紹介しましたが、図書館でも本を借りて返すという、一見何でもないことが、何ごともなく繰り返されるためには、目に見えないところでいくつもの手間がかけられています。カウンターでバーコードをスキャンするだけで貸出・返却の処理が行われ、キーワードを叩けば、お目当ての本が探し出せる。これは図書館のコンピュータシステムの働きによるもの

ですが、データを作る人がいて、システムを管理する人がいてできることです。カウンターで利用者の対応をする人たちも資料のやり取りをするだけではありません。傷んだ資料の補修、書棚の埃落とし、書棚に並んでいる本のチェック、本への書込みの消去作業など、地味な作業もこなしています。

毎日、開館前に掃除をする人たちがいます。夜11時、閉館時間を迎えますが、それから掃除をする人たちもいます。空調機器の整備や調整、複写機などの機器のメンテナンスから蛍光灯の交換まで、最良の環境を提供するために目に見えるところや見えないところ

ろで、何人もの人が働いています。すべての利用者が満足できるサービスや環境を提供するというわけにはいきませんが、利用者がより心地よい環境で利用できるように、それぞれが自分の役割を果たしています。

「何ごともなく」が「あたりまえ」であるために、今日も「誰か」が「どこか」で「何か」をやっています。

みなさんは「あたりまえ」と思われることが「何ごともなく」済んでいくことに「?」や「!」を感じることはありませんか。

(奉仕課 東 勇一)

図書館日誌 平成18年4月～11月

見学者

- 6.8 阿蘇清峰高等学校 15名
- 6.9 熊本学園大学附属高校保護者 54名
高森高等学校 28名
- 6.16 敬愛幼稚園 140名
- 6.19 南稜高等学校 34名
- 6.21 武蔵中学校PTA(熊本市) 8名
- 6.22 深圳大学教員訪問団(中国) 8名
- 6.23 大田大学校経営行政大学院(韓国) 22名
- 6.24 鎮西学院高等学校(長崎) 23名
- 6.27 大田大学校夏期学生研修団(韓国) 21名
- 7.5 れいめい高等学校(鹿児島) 1名
- 7.6 日比谷学園高等部熊本校 7名
- 7.7 熊本信愛女学院高等学校 96名
翔陽高等学校 6名
- 7.12 小国高等学校 34名
- 7.14 芥明高等学校 17名
- 7.29 熊本国府高等学校PTA 17名
- 8.4 御船高等学校PTA 48名
荒尾高等学校 16名
- 8.8 水俣高等学校 35名
- 8.31 愛知県私大事務局長会 22名
- 9.8 菊池農業高等学校PTA 8名
- 9.11 開新高等学校 30名
- 9.14 龍谷高等学校(佐賀) 70名
- 10.3 崇城大学図書館 1名
- 10.4 鹿南中学校(植木町) 42名
- 10.11 湧心館高等学校 80名
高森高等学校PTA 14名
- 10.17 熊本中央高等学校 8名
- 10.20 大分西高等学校PTA 25名
- 10.25 多良木高等学校 106名
- 10.30 松島商業高等学校 70名

行事

- 4.5 入学式
- 4.6 新入生図書館オリエンテーション
- 4.12～6.21 図書館ガイダンス
- 5.15 図書館委員会
- 6.24 熊本地区保護者懇談会図書館開放

- 7.2 インターライブラリー親善スポーツ大会
- 7.10 図書館委員会
- 7.17 オープンキャンパス図書館開放
- 7.21～8.3 春学期定期試験特別開館
- 8.4～9.11 夏期休業特別貸出
- 8.8 オープンキャンパス図書館開放
- 9.12～9.14 帯山中学校ナイスライ
(職場体験実習)受入れ
- 9.17 休館(台風接近による臨時休館)
- 9.30 学生懸賞論文募集締切
- 10.14～10.20 図書館実習
- 10.21 図書館公開フォーラム・
山口源治郎氏講演会
オープンキャンパス図書館開放
- 10.30 図書館委員会
- 11.10 私大図書館協会西地区部会
九州地区研究会準備委員会
- 11.19 休館(推薦入試)
- 11.20 図書館委員会・
学生懸賞論文選考委員会

編集後記

2006年も終わろうとしています。ことしも図書館のいろいろな話題をお届けしてきました。来年も明るい話題でいっぱいになるように願っています。それでは、みなさま良いお年をお迎え下さい！

大楠 第39号

2006年12月5日

編集・発行 / 熊本学園大学附属図書館
〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
TEL (096) 364-5161 FAX (096) 362-5967
<http://www.lib.kumagaku.ac.jp/>

